

て、自分のからだをこわしたり、また他人にいろいろの迷惑をかけたたり、甚だしいのは文化財の汚損、高山植物の掘り起しなどの行為は本当の意味での「観光」ではなく、自由な気持ちで風景を楽しみ、温泉で保養し、名所旧跡を訪れ、清浄な大気の中で心身を鍛えるという観光のあり方に意義と価値をおいたものであり、また今日の観光の進むべき方向であるということがいえます。

観光資源がいつば いの熊本

熊本は、全国的にみても観光資源の豊富なところといわれています。一般には観光資源といわれるものの範囲は、きわめて広く、むしろ観光資源になりえないものはないとさえいわれています。

最近では「産業観光」といって近代的工場の生産設備や、牧畜、果樹、林業などの農業施設自体がその対象となつていきます。

観光資源は、大別しますと地形、動物、植物などの自然的資源と、歴史と伝統のなかで形成された建造物、美術工芸品、史跡風俗、行事など人文的資源に分けることができます。

熊本の場合をみますと、自然的資源では、我が国の象徴的観光資源といえる火山美と海岸美の阿蘇、天草の両国立公園や、変化にとんだ県立公園、三十有余の

温泉群などがあり、又、人文的資源では、古くは阿蘇の神話にはじまって、仏教を中心とする大陸文化や、キリシタン文化を中心とする西欧文化を受け入れ、近くは思想や宗教において熊本という一地方としてのことだけでなく、我が国の文化に多くの貢献をしたことを物語る多彩なものがあり、県全体が観光資源といえます。

今日の観光が、このように大自然の風光や、歴史にぎざまれた文化財などを対象とし、特性ある観光地づくりの基盤となつて観光客を惹きつけていることを考えますとき、本県の観光は、国民の健康とレクリエーションに通じて、さらに観光産業としても全国に誇つてよい極めて価値の高い地域といえます。

これらのすばらしい観光資源は、自然の恩恵と、そこに育ぐまれた人達の創造に対する努力のたまものであり、祖先がのこした遺産といえます。

この歴史的遺産である自然景観や文化財を守り、次の世代へ引き継いでいくことは、私たちに等しく課された義務でもあります。また同時に、観光熊本のもつ資源の美しさ、雄大さ、貴重さをいかに失なわないように活用し、開発してより豊かな時代をつくるために国民観光に提供し、さらに観光産業の発展をはかるかが、本県観光にとって、最も大切なビジョンであるといえます。

世界的な複式活火山と、広大な草原原

—文化財は観光資源の中で大きな位置を占めるようになった。
写真は熊本城—



をもつ阿蘇：多島群景観とキリシタン遺跡をもつ天草：これら二つの国立公園は、我が国のすぐれた風景地をできる限り美しい自然のままに保護し、国の

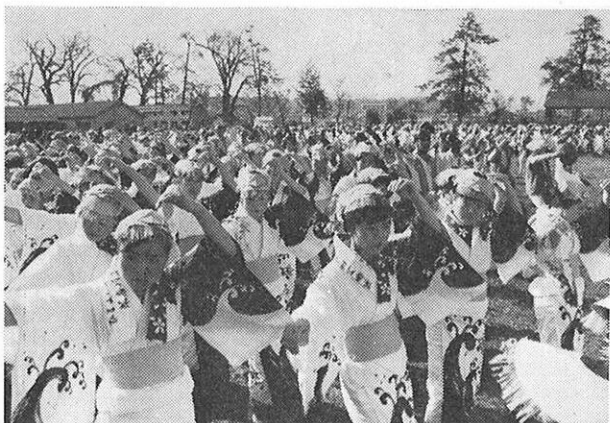
観光休養都市へ ハッスル

よ

一人吉市

水鏡豊かな球磨川と、湯の香源よう落ちついた味わいをもつ人吉市は、その特性を生かした「観光休養都市」の確立へ活発な動きをみせている。まず、観光客の受け入れについては、一般市民

—名物の球磨川まつりリカッパ踊り—



内外を問わず多くの人達に接してもらい、究極にはみんなの保健、休養、そして教化に生かさなければならぬという趣旨のもとに定められました。

の観光客に与える印象が、観光都市人吉の評価を率直に決めること、三十九年から毎年十一月初旬に観光週間を設けて、市民の観光意識の昂揚を呼びかけている。この週間中には、人吉に来遊する観光客の動きなどを載せた各戸配布のPR紙「観光ひとよし」の発行をはじめ、人吉、球磨の史跡めぐり希望者を一般から募って案内するなど、案外知られていない郷土のよさを理解して貰おうと懸命だ。

かわつたものに「人吉川干鳥学校」がある。最も数多く観光客に接するサービス従事者の質の向上のために、人吉市と市観光協会が開いているもので、校長は市長、教頭は観光課長、職員は観光課員という顔ぶれ。生徒は旅館の接待さん、パティ、キャブレードのホステス、球磨川下りのガイドなど、いわゆる観光サービス第一線の人たち。毎月二回、人吉地方の文化財、歴史、民謡はもちろんで、電話の応待の仕方など、じっくり勉強してもらっている。「お陰でお客様に尋ねられても、返事ができないということも、殆んどなくなつた」と、生徒さんたちにもなかなか好評だ。

年中行事もアイデアが一杯だ。今年四月初めに行なわれた球磨川祭は、去年北海道の定山溪カッパに嫁入りした球磨川カッパの里帰りであつて、これまでの温泉祭に、北九州市の若松、大分県の耶馬溪、鹿児島県の宮崎の小林のカッパが勢揃いした九州カッパ祭が参加。人吉を観光したいに後につづるものだ。

こうした、人的な面での受け入れ体制とともに、人吉市は地理的にも熊本市や天草と宮崎、鹿児島との南九州観光地を結ぶ観光交通上の結節点でもあり、今後の道路網の整備、観光資源の開発などの進展とともに、観光休養都市としてまた一段の飛躍が期待される人吉の観光である。

文化財等は、公開等により文化的活用をはかってこそはじめてその価値や意義を充分に発揮できるものです。従つてひろく国民が歴史の伝統に接して生活の憩いや、教養や民族精神を養うものであり、その保護と活用が大切であることはいうまでもないことでしょう。

ところで、観光の先進国ともいえる欧米では、自然景観や古い歴史のなかでつくられた文化財はもちろん、これを取りまく環境の保全にまで細心の注意をはらっています。

例えば、一九六五年定められたアメリカ大統領の国土美化教書のなかで「自然美は損益計算書には表わし得ない。しかし自然美は人間が満足し喜びと良い生活に至るための、真の意味における国民所得のうちでも最も重要な構成要素の一つである」として国立公園、ハイウェイ、河川、海岸、都市の景観美について強い施策を推進しています。

また、イギリスでは民間の有志が基金を出しあつて、景観や文化財を保全し、公園施設をつくるナショナルトラストという制度があります。ヨーロッパ諸国では連合委員会を組織し、青少年学生に対して徹底した自然保護教育を行なっているなど、観光資源の保護と育成に力をそ

昨年一年だけでも、阿蘇を訪れた観光客はざつと四〇〇万人、天草は、天草五橋の開通により一八〇万人の観光客がやってきましたが、この数は今後ますます増加することが期待されます。

そこで、できるだけ多くの人たちに公園を利用してもらうためには、道路、交通施設、宿泊施設等の整備が必要となつてきます。またこのような観光開発は、地域経済の発展からも極めて重要なことです。

ここで、自然公園を保護するための規制と、観光客の利用のための観光施設による調和が大切な問題となつて浮び上がってきます。

「自然公園法」では、公園計画において阿蘇五岳外輪山一帯、天草松島一帯といった自然を保護すべき地域と、阿蘇では瀬の本、地獄・垂玉、天草では千歳山地区など、観光客の利用のための適切な観光施設を配置すべき地域に分けて観光地づくりにあたっているのも、自然景観をより効果的に活用することを前提としているゆえんであります。

さらに、県内の豊富で多彩な史跡、名勝、天然記念物といった文化財を対象とする観光旅行は、青少年、学生、職場を通じて年々増加しています。

来年の昭和四十三年はわが国が近代国家として発足した明治以来百年を迎えますが、本県には、産業、政治、学術、宗教、文学、さらには人物にわたつても極